

〔編集後記〕

「社会科学ジャーナル」第21号(2)についても、多くの執筆希望者の労作が紙幅の都合で掲載を繰延べるなどの事情を生じたことは大変残念であった。執筆希望が掲載可能量をはるかにこえているということは大変嬉しいことではあるが、折角の労作の発表の機会がそれだけ限られていることは、一面止むをえないこととはいえ、放置できない状況のように思われる。

ICUは、研究の学際的交流が活発であることを1つの特色としているといわれる。しかし、学際的交流といっても、学問のすべての分野にまたがった交流ということは事実上きわめて困難であり、なかなか実際的な効果、それも高いレベルでの効果を期待しえないことは事実である。そう考えると、社会科学の分野のなかでだけでも、学際的な接触が実現され、かつ維持されれば大変有益と考える。そして、このジャーナルがその役割を果たすことにおいて、このような学際的交流を具現していることはまことに喜ばしいことである。

(中島省吾 記)